

ふりがな 氏名	やまもと さよ 山本 彩代	都道府県	京都府	
所属/肩書	<ul style="list-style-type: none"> ・NPO 法人場とつながりラボ home' s vi ・アクティブ・ブック・ダイアログ®協会 			
関心・活動のSDGs				
私のESD活動	地域や組織でのほっとけない・やってみたいを話しやすく、小さなことから挑戦しやすい場をつくる			
活動の概要				
<p>「伏見をさかになにぎっくばらん」は、毎年市民から「あなたが伏見のまちの中でほっとけない！やってみたい！と想うテーマ」が 30 近く持ち込まれ、話し合う中で仲間と活動するチームを生み出す場です。伏見区役所・事務局のみなさんと共に 8 年間毎月一回開催しています。区民だけではなく、区内に通勤・通学の場所がある方や、伏見に縁を感じる方は誰でも参加可能という形式をとっているため既存の自治会活動とは違った人材の活躍機会となっています。地域に対して思いがあるがずっと仕事をしてきた方、最近引っ越してきたばかりの方、幼いころ伏見に住んでいた方等が集っています。活動のテーマは行政や事務局から定めることがないため、高齢者のさんぽマップの中には座ることができる場所・病歴記入欄・トイレ・避難所情報が優先して記載されているなど当事者のニーズにそった活動が生まれる機会となっています。毎月 50 名近くの方が顔を合わせることで、ゆっくりと違う世代やテーマの方を知っていくことができるため、複数のチームが共同で伏見お城祭りやイベントを企画するなどが起こっています。常設の場である市民活動センターとは違ったこのような事業が 5 年を超えて行われ続けていることは全国的にも珍しく、今も各チームがそれぞれが仲間やファンの方を集めており、まちの関係資本が育ち街の中に増えていっています。今年度も 21 のチーム登録がありました。</p>				
<p>・要望型から提案型へ。市民の主体性をはぐくみまちを変えた「人が集う場」の力とは？ https://www.nativ.co.jp/article/homesvi/ ・伏見の市民活動「ふしざく」、18 チームが今年の活動を発表 https://fushimi.keizai.biz/headline/403/</p>				
私が考える教育の未来像				
<p>街には空き家や利用の少ない公共施設などが多数存在していくため、校舎ではなく街の中の公共施設や団体の部屋で授業が行われ、日頃住む場所とより深い接点を持つ。学びをサポートするコーチがつき、学習者の興味や意欲・表現したいことをベースとして言語学習が行われる。自分たちで作った野菜を使用した料理を昼食として食べることで、食・排泄・自然など生きることを学ぶ。個別学習と協同学習をそれぞれに特化した専門スタッフが置かれる。チームや他者と協働する場面を想定した知恵を得るカリキュラムが普通科におかれる。</p>				
私の強み、活かせる経験やスキル				
<p>スキル: ファシリテーション・グラフィックファシリテーション・グラフィックレコーディング。プロジェクトファシリテーション。対話型ワークショップのプログラム設計。</p> <p>強み: 地域の方と気軽な会話を重ねる中でつながりをつくること。拡散フェーズでのアイデアを数多く出すこと。場を観察し、参加のステップを考えること。フットワークが軽い。</p> <p>経験: 市民活動創出の場「ふしざく」、綾部市志賀郷「小さな拠点を核としたふるさと集落生活圏形成推進事業」、京田辺市中央公民館人材育成講座、府社協「ボランティアの入り口プロジェクト」、アクティブ・ブック・ダイアログ®の手法開発・実践、自組織の teal 組織(ホラクラシー)化</p>				